

## 気学推命・詳細マニュアル




当サイトの通信鑑定で最もご利用実績の多い、「5年間オリジナル風水暦」の補強として使用できる、詳細マニュアルです。

もちろん、単体でもご使用できますが、方位の吉凶ではなく、運勢に重点がかかっていますので、オリジナル風水暦の点数表と併せ、車の両輪として働きます。現時点の通信講座には組み込むことの出来なかった部分ですので、通信講座受講済の方も、どうぞご利用下さい。内容は主に以下の3点です。

- ◎ 気学命理による先天運の判断（定位盤、本命盤、月命盤、日命盤を使用）
- ◎ 毎年の後天運を判断（同会法と被同会法を使用します）
- ◎ 毎年、毎月の開運ポイント（吉方移動と家相改善によって行います）

### ◆気学先天推命盤（気学命理）

ご自分の先天的傾向を、定位盤を下敷きに、年盤、月盤、日盤の三段重ねで判断します。いわゆる傾斜法で実用的なものですが、判断法の中に例外がある為か、意外に使い方が詳しく知られていません。

本命六白・月命二黒・日命一白の方の例		
		
本命盤	月命盤/離宮傾斜	日命盤/乾宮傾斜

本命盤は基本的な性格や宿命を現します。月命盤は外交的な性格をより具体的に現します。日命盤は内向的な性格を現します。

上記は一例で、実際には誕生時の盤には、暗剣殺や破や、生氣、天道などの神殺星がついていますので、もう少し精密になります。

他の宮にもそれぞれ意味があり、坎宮は子供・部下運や持久力、忍耐力など、兌宮は恋愛運や金銭運（現金）、坤宮は家庭運や仕事・営業力などを現します。

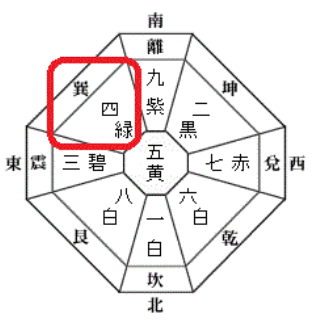
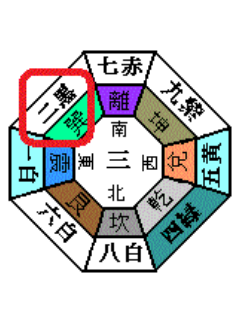
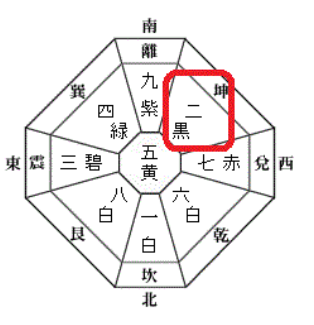

9つの各宮の傾向を観ますので、より現実的傾向が如実に分かります。

東洋命理学の中では、四柱推命は比較的に、その人の本質や一生の流れを読むのを得意としてきました。

一方、気学は現世的な傾向や社会性など、目に見える傾向を読みやすいものです。この傾向を生かして、方位の吉凶が広く取り沙汰されてきましたが、気学命理のほうは意外に知られていません。

このように気学命理は非常に読みやすいのですが、パターンが多すぎる為、当サイトでもこれまで着手できませんでした。今回、通信鑑定の中で最もご利用実績の多い、5年間オリジナル風水暦の補強として、個人鑑定の形で提供致します。更に、同会・被同会法を使用して、年運・月運を把握することが出来ます。

## ◆九星運氣循環表（同会、被同会による後天運）

本命二黒土星の方の場合			
2024 年同会		2024 年被同会	
			
本命二黒土星は巽宮に回座しているので巽宮の基本的性質を受けやすくなる。本命二黒土星は巽宮同会。		本命二黒土星は、坤宮が定位置。2024年は坤宮に九紫火星が回っているので、本命二黒土星は九紫被同会。	

同会は分かると思いますが、被同会がややこしいですね。

同会=上から下を見る=つまり、年盤から定位盤を見ます。

一方、被同会は下から上を見ます。傾向としては、同会は能動的（自発的）現象、被同会は受動的（他動的）現象を現します。

つまり、2024年・二黒土星の例では、巽宮同会で、九紫火星被同会。

巽宮同会なので、自分では遠出したくなったり交際も広がります。やや迷いが出たりもしやすいでしょう。

九紫火星被同会は、目立つ立場に立たされやすくなり、物事の白黒がはっきりつく傾向があります。それも坤宮での出来事なので、主に家庭内で影響が出やすく、職場の場合は、本社よりも現場とか下部組織での係わりが多いでしょう。

上、下というのは、クルクル変わるほうが上、変わらないほうが下です。つまり、【下→上】＝【定位盤→年盤→月盤→日盤】の順序です。重くて変化が遅いほうが下、と考えると覚えやすいでしょう。

今回提供：2024年～2028年

## ◆毎年、毎月の開運ポイント付（2024～2028年）

毎月の家相の改善ポイント（整理整頓、掃除と換気他）

吉方移動のおススメ出発日（オリジナル風水暦の補強ぶんです）

※ 換気や採光は、先天命式から割り出した個人の体質に基づき、アレンジします。

**料金：20,000円（1名）**

**3月末日まで限定割引**

**通信講座受講と同時申し込みで10,000円になります。**

申し込みフォーム：[http://www.kumokiri.com/Manual\\_Form.html](http://www.kumokiri.com/Manual_Form.html)

「タオの風水学教室」